

# はじめに

重点領域研究も3年目を終わろうとしている。1年に1度の研究集会と、シンポジウムを行っているが、今年の研究集会はテーマをぐっと絞り込み、試みとしては多少面白いものになったと思う。今回の高谷さんの報告には、かなりの異議が唱えられるだろうと予感している。おそらくその内容というのは、東南アジアの生態というものを基盤に据え、そこから社会、あるいは国家というものを捉えようとする試みである。東南アジアでは、国家は生態に強く縛られている。あるいは生態は、社会や国家にどれだけの影響を及ぼしているのか。このような論点が前面に押し出されてくるだろう。だが、それは社会科学などではおおよそ認める事はできないかもしれない。現実とは全く違うではないかという考えは、一方に極めて強く存在しているだろう。

このような深い対立する考えをこの場に持ち込んだのも、我々がかねてから生態的な視点を取り入れたいと念願しているからなのだ。果たしてそれはどの程度可能なものなのか。あるいはどのような修正を要求されるのか。最初からかなりの波乱が予想されるが、それは極めて楽しみでもある。忌憚のないディスカッションを期待している。

文部省重点領域研究「総合的地域研究」総括班

領域代表者 坪内良博